

カリフォルニアを中心とするアメリカ近代都市計画史に関する 一連の研究

正会員 秋本 福雄 君

本研究の対象はアメリカの近代都市計画史であり、州ごとに異なるアメリカの都市計画システムのうちもっとも注目すべきもののひとつであるカリフォルニア州を取り上げ、人物研究（第1章、第6章、第7章）・分野別研究（第3章、第4章、第5章、第7章）・事例研究（第2章、第3章、第7章）のそれぞれの面で、膨大な一次史料を丹念に読み込み、そのなかから精緻に史実を掘り起こし、さらに関係者の遺族へのインタビューを通じてカリフォルニア州の都市計画制度の生成とその後の発展過程を日本はもとより海外においても初めて包括的かつ体系的にとりまとめたものである。

人物研究においては、第1章においてカリフォルニアの都市計画家チャールズ・H・チーニーを取り上げ、都市の効率と都市美の実現という相克する便益を調和させるための道を探求したその半生を明らかにしている。また、カリフォルニア大学バークレー校の都市地域計画学科の創設者であるT・J・ケント・ジュニアのマスタープラン論を扱った第6章では、マスタープランの作成を立法行為としたケント独自の見解の成立過程を詳細に明らかにしている。続く第7章では、ケントによるサンフランシスコ・ベイ・エリアの大都市圏計画の探求と大都市圏計画の考え方におけるL・マンフォードの影響を示し、さらに計画を実践する広域自治体を創設することに向けた試みについて明らかにしている。

都市計画手法や計画テーマの分野別研究では、都市美運動、建築のデザイン規制、広域計画、土地利用計画、マスタープラン、制限的約款など、アメリカ都市計画の主要部分をひろくカバーしている。とりわけ建築のデザイン規制に関する草創期、1920年代の事例を初めて明らかにした第2章や、今日の都市計画においてもっとも日常的な手法となっている土地利用計画が1930年代に農林業の分野で生まれ、これが40年代に都市計画の分野でも受容されるようになっていったことを初めて詳細に明らかにし、その過程を具体的に例証した第5章はアメリカおよび日本のみならず、世界の都市計画史研究上に多大な貢献をなしている。

事例研究においては、第2章において、1910年代から1920年代にかけてのカリフォルニア州の田園郊外の傑出した成功例であるセント・フランシス・ウッドとパロス・ベルデス・エステイトの成立事情を豊富な図面とともに詳細に明らかにしている。

本研究は日本におけるアメリカ近代都市計画史の初めてのまとまった成果であるのみならず、国際学会誌ならびにアメリカ国内の専門誌においても十分通用する高い水準のものである。本研究は今日の日本における本格的海外都市計画史研究の最先端および最高水準を示すものとして高く評価できる。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。